

## SDGsへの取り組み方針

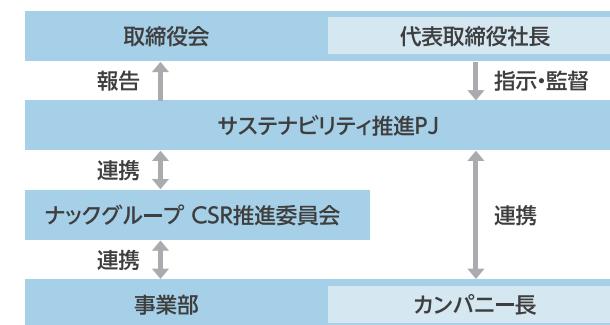
ナックグループでは、お客様やビジネスパートナーに対してはもちろん、国や地域ともよりよい関係を築き、自然や地球環境に配慮しながら活動を継続していくことが社会的な責任であると考えます。

この理念は、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」とも合致しています。「暮らしのお役立ち企業」であるナックグループは、SDGsの精神を理解した上でお客様の生活をサポートするとともに、社会のさまざまな課題を解決するために尽力していきます。



## サステナビリティ推進体制

サステナビリティ経営推進のため、経営管理部を中心に各事業部と具体的な対応策について検討を行っています。年2回以上は取締役会へ報告を行い、その内容を含む気候関連問題への対応全般に関して指示・監督を受ける体制を構築しています。



## 重要課題(マテリアリティ)の特定

社会性・経済性の観点から以下5つの重要課題(マテリアリティ)を特定し、現在、定量的な指標を検討しています。

### 1. 循環型社会の実現

事業活動を通して、限りある資源の有効活用に寄与していきます。



### 2. 脱炭素社会の実現

温室効果ガス排出量の削減を目指し、脱炭素社会に貢献しうる商品・サービスの提供を行ってまいります。



### 3. 地域との価値共創

地域社会に根付いたサービス提供、雇用創出の側面から貢献してまいります。



### 4. 豊かで快適な暮らしの実現

暮らしのお役立ち企業として、豊かで快適な暮らしの実現に貢献します。



### 5. 多様な人材育成と人権尊重

多様な個性を活かした組織づくりを推進するとともに、より良い職場環境の整備に注力します。



## 「サステナビリティ」ページの新設

2022年4月、当社コーポレートサイトを全面リニューアルしました。それに伴い、同年6月には新たに「サステナビリティ」ページを開設しました。ステークホルダーの皆様へ環境課題に対する取り組みなど積極的に情報発信を行ってまいります。



## 気候変動への対応

2021年9月、ナックグループでは気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言への賛同を表明し、賛同企業や金融機関が一体となって取り組みを推進するコンソーシアムにも加盟しています。

気候変動問題をはじめとした社会課題解決に寄与すべく、取り組み強化のための状況把握および体制づくりを進めるとともに、TCFD提言により推奨される開示フレームワークを参考とした情報開示を積極的に行ってまいります。

**TCFD** | TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

**TCFD Consortium**



## カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

GHG排出量に関して、日本政府目標に準じ、2050年までにカーボンニュートラルを実現する目標を掲げ、達成へ向けて主に以下取り組みを実施・検討しています。

- 低公害車の導入
- 再生可能エネルギー由来の電力への切り替え
- 技術革新における成果の情報収集、提携の検討



低公害車の導入に関して、2022年3月より東京都町田市にて電気自動車の実証実験を開始しました。電気自動車をはじめとする低公害車導入に向けて、今回の実験を通して知見を深めています。

当社の重要課題として掲げる「脱炭素社会の実現」に向けて、関連分野での外部との提携も視野に包括的な取り組みを進めています。

## CDP質問書に対する回答

2022年7月、ナックグループは、国際NGOであるCDPが実施する「気候変動質問書」に初めて回答しました。地球環境への貢献に向けた自社の取り組み状況を振り返り、今後も積極的な環境情報開示にも注力してまいります。

**CDP**  
DISCLOSURE INSIGHT ACTION

## ダイバーシティ推進

### 女性活躍の推進

「女性活躍推進法」に基づき、女性の活躍推進に向けた行動計画を策定しています。女性営業職採用を拡充しているほか、グループ会社においても住宅営業、設計、インテリアコーディネーター、施工管理、アフターメンテナンスなどあらゆる分野で女性が活躍しています。



### 障がい者雇用枠の拡大

ハンディキャップに関わらず自立した生活ができるよう、障がいのある方のさらなる雇用と定着を目指しています。それぞれの特性に合った業務の検討、就労定着のフォロー体制の整備などに積極的に取り組んでいます。



### 幅広い世代が活躍できる体制づくり

高齢化が進み人生100年時代といわれる中、60歳定年後の就労問題の解決および人材の活用を図るために、定年後再雇用制度を取り入れています。75歳定年制度を設けているグループ会社もあり、本人の希望や健康状態に配慮しながらセカンドキャリアのサポートができる体制を整えています。



## 社内表彰・報奨制度

年間で高い営業成績の基準に到達した従業員を表彰する「ナックエースクラブ」や事業部ごとの報奨旅行、長きに渡りグループに貢献してくださった従業員の方へ、その功績を称え感謝の気持ちを表す「永年勤続表彰」などを通じて、組織の活性化と従業員のモチベーションアップに繋げています。



## 社内浸透活動

地域清掃や打ち水、ベルマーク収集などのCSR活動に取り組んでいます。環境省が推進する「fun to share」にも賛同しており、社内ではライトダウンキャンペーンやオフィスができるエコ強化月間を実施しています。教育面では、社内イントラネットを活用した情報発信や、eラーニングでの研修実施など、戦略的CSR(経済的な価値と社会的な価値の両立)への理解促進を図っています。



## 森林保全活動の推進

環境に対する社会的責任として、森林再生と地域振興につなげるプロジェクト「プレゼントツリー」などに参画しています。クリクラではお客様を招いた植樹イベントを実施し、きれいな水を作る上での森林の大切さを伝えています。ジェイウッドやケイディアイでは、住宅引渡し1棟につき1本、お客様が里親となる苗木の植樹を行うことで、木造住宅ブランドとして豊かな森づくりに貢献しています。



## 次世代を担う子供たちへの支援

### 生活環境や教育機会の確保への助成

内閣府をはじめとする官民協働プロジェクト「子供の未来応援国民運動」に参画しています。ダスキン事業で実施している寄付付き台所用スポンジの販売に加え、建築コンサルティング事業では、会員工務店からの会費の一部を寄付しています。寄付の他にも、プロジェクトを通してご縁のあったNPO法人へ、クリクラのオリジナル定規を寄贈しています。



### 教育環境整備への助成

「すべての子供に等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という想いのもと、約14年間にわたりベルマークを収集し、毎年ベルマーク教育助成財団へ寄贈しています。1点あたり1円として集計されたベルマーク預金は、主に学校の設備や教材の購入費として使用されています。



## 被災地や発展途上国への支援

近年頻発する災害発生時には、グループ内の従業員から義援金を募り、同額を会社が上乗せする「マッチングギフト」を通して、被災地の災害対策本部等へ寄付しています。

通常時には、各お客様ポイントの「寄付」交換も実施しています。主にクリクラでは国際NGOウォーターエイド、ダスキンでは日本赤十字社やユニセフなどの団体へ手軽に寄付することができ、お客様と共に進行貢献活動として継続しています。

